

令和2年度・3年度  
鹿児島県租税教育研究委嘱校

# 租税教育の実践



鹿屋市立串良中学校

# 目 次

○ はじめに	
1 鹿屋市の概要	1
2 学校の概要	1
I 研究の概要	
1 研究主題	1
2 研究主題設定の理由	1
3 研究の目標	2
4 研究の組織	2
5 租税教育全体計画	3
6 租税教育年間計画	4
II 研究の実際	
1 租税教室における取組	5
2 社会科における取組	8
3 国語科における取組	11
4 特別の教科 道徳における取組	15
III 研究のまとめ	
1 税に関するアンケートの分析	17
(1) 税に関するアンケート結果	
(2) 租税教室を通しての生徒の感想	
(3) アンケート結果の考察	
2 研究の成果	18
3 今後の課題	19
○ おわりに	19
○ 税についての作文	20

## ○ はじめに

### 1 鹿屋市の概要

鹿屋市は本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、人口は約10万人で古くから大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点として役割を担っている。

市の北部には日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山系が連なり、西部は、鹿児島湾(錦江湾)に面して美しい海岸線が見られ、南部は、神代三山陵の1つである吾平山上陵を有する山林地帯となっている。

平均気温 17.3℃、年間降水量 2,350mm と1年を通じて温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれ、第1次産業を基幹産業として全国でも有数の食料供給基地を形成するとともに、日本最大級の『かのやばら園』や国立大学法人鹿屋体育大学などの施設も集積している。

串良町は、鹿屋市の東部にあり、第一次産業に従事する住民が多く、農業を基幹産業とする町である。2006年1月1日に、周辺の鹿屋市、輝北町、吾平町と合併(新設合併)し、新たに鹿屋市となった。町内には、旧海軍特攻基地跡に建設された平和公園があり、南北1200m、東西1200mの滑走路跡の沿道に延々と続く桜並木(約1000本の桜)があり、大隅半島の桜の名所となっている。

### 2 学校の概要

本校は、生徒数109人(5学級、特別支援学級2学級を含む)、教職員15人の小規模校である。「自主創造」「協同責任」「明朗真摯」の校訓のもと、学校教育目標である「自ら学び、豊かな心を持ち、コミュニケーション能力を備えた心身ともにたくましい生徒の育成」を旨とし、日々の取組を行っている。

## I 研究の概要

### 1 研究主題

租税教育を通して、税に対する理解と興味・関心を高め、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

### 2 研究主題設定の理由

私たちが納める租税は、社会資本の整備や社会保障の充実など、国民生活と福祉の向上を図る上で大変重要なものであり、国や地方公共団体が行う様々な公共的な財やサービスの財源となっている。

現在や将来の納税者として、生徒が税に対する理解と興味・関心を高め、税の意義や

役割を正しく認識することはとても大切なことである。今後、社会を支える一人としての自覚をもち、納税の義務を果たす責任感を養うことにもつながる。

近年、テレビや新聞等で消費税増税などに関する問題が取り上げられ、比較的身近に感じることができる税の種類もある。しかし、税についての概要やしくみ、その用途についてなどの幅広い理解につながっているとはいいがたいのが現状である。

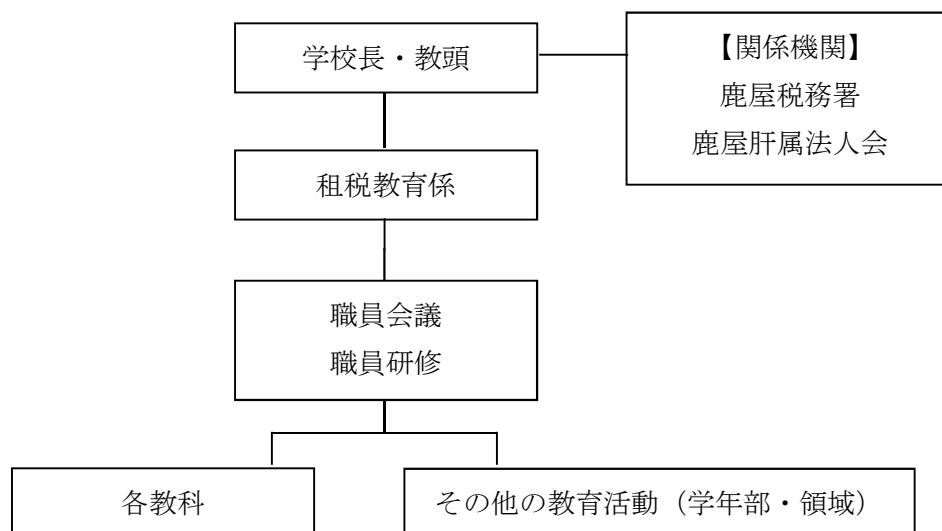
※（事前のアンケート結果から、税についての関心は低く、家庭でも税について話す機会もほとんどないことがわかる。）

このような本校の現状から、租税教育を通して、生徒の税に対する理解と興味・関心を高めることで、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成できるのではないかと考えた。

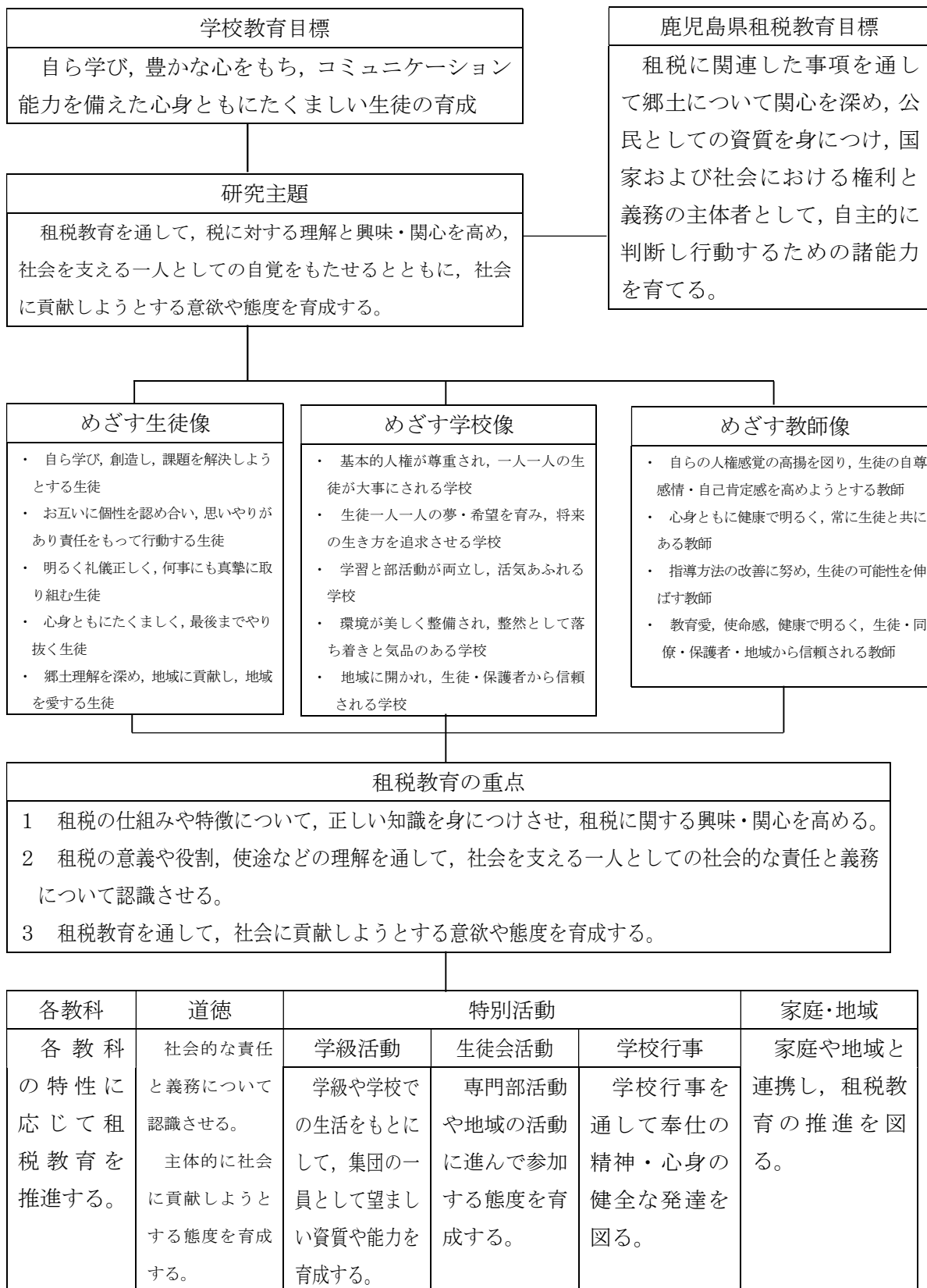
### 3 研究の目標

- (1) 租税の仕組みや特徴の理解を通して、租税に対する興味・関心を高める。
- (2) 租税の意義や役割、用途を理解させることで、社会を支える一人としての自覚をもたせる。
- (3) 租税教育を通して、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

### 4 研究の組織



## 5 租税教育全体計画



## 6 租税教育年間計画

(令和2年度)

4月	
5月	研究委嘱を受ける
6月	研究主題・計画の検討 担当教員の研修
7月	学期の反省 税に関する作品への応募
8月	税に関する作品の審査 担当職員の研修
9月	税の作品への出品 租税教室の打ち合わせ 令和2年度 第1回 租税教室の実施に向けて (大隅税務署, 法人会担当者との連絡・準備)
10月	研究主題・計画の決定
11月	租税教室における取組のまとめ
12月	学期の反省
1月	1年次の研究のまとめ
2月	1年次の研究のまとめ
3月	初年度の反省と来年度に向けての計画

(令和3年度)

4月	本年度の計画策定
5月	令和3年度 租税教室の打ち合わせ
6月	令和3年度 租税教室の実施 担当教員の研修
7月	学期の反省 税に関する作品への応募
8月	税に関する作品の審査 担当職員の研修
9月	税に関する作品の出品
10月	2年次の研究のまとめ
11月	2年次の研究のまとめ
12月	学期の反省
1月	研究委嘱成果のまとめ
2月	研究委嘱成果のまとめ
3月	2年目の反省

## II 研究の実際

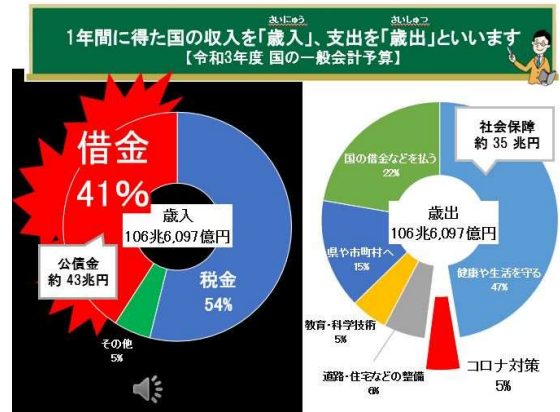
### 1 租税教室における取組

令和2年度、令和3年度に鹿屋肝属法人会青年部の方々を講師に招いて、第3学年を対象に租税教室を実施した。

《内容》

#### (1) 税金の基礎知識について（令和2年度・3年度 共通の取組）

「もしも税がなかったら」「税の種類」「国の財政」について、クイズを交えながらわかりやすく説明していただいた。



#### (2) グループワーク「社会保障を減らす方法を考えてみよう」（令和2年度の取組）

「歳出額が最も多い社会保障費を抑えるために、どのような取組を行えば良いか」について考え、税の効果的な使い方について理解させる活動に取り組みさせた。

ア 社会保障を抑えるためには(生徒のまとめ)

- ・ 健康についての意識を高める。
  - 食事のバランス・運動で歳出を減らす。
  - お酒・たばこ・おかし税などで歳入を増やす。
- ・ 規則正しい食事や適度な運動により、介護のお金を減らす。
- ・ 家で介護ができる介護ロボットの発明。
- ・ 障がいをもっている人たちがもっと働きやすい環境作りを行う。
- ・ 税収を増やす→テスト税、宿題税、スポーツ税、ゲーム税など。
- ・ お酒・たばこ税を上げる。

**キミの声が未来を変える！** かも

～『社会保障費』から考えてみよう～

【今の状況】

**社会保険費** 約34兆円

**歳出額** 約99兆円

国債費 約24兆円  
地方交付税 交付金等 約16兆円  
その他 約9兆円  
防衛 約5兆円  
公共事業 約6兆円  
文教および 科学振興 約5兆円

**医療・年金・介護 福祉・その他**

に必要な税金が増えている...

を抑えるためには...

してみよう!

年 組

氏名

イータ君

イ 租税教室で一番興味をもったところ（生徒の感想）

- ・ 自分たち一人一人に毎年約100万円のお金が税金から出ているということ。
- ・ 日本の借金を少しでも減らせるように、いろいろな税をグループで考えることが楽しかった。
- ・ たくさんの税の種類があったことに驚いた。
- ・ 学校の備品の値段が、高かったこと。
- ・ 自分が中学3年生になるまでに、たくさんの税金が使われていたこと。
- ・ 自分たちの生活が税金によって支えられていること。
- ・ 自分たちの身の回りのものが税金に使われていて、探するのがとても楽しくなった。
- ・ 社会保障費をおさえる取組を考えたとき、いろいろな案が出て、私たちにもできることたくさんあると実感できたこと。







## 2 社会科における取組

「税」をとりあげた単元を通して、「主体的・対話的・深い学び」の視点で、グループで資料を読み取る授業を試みた。

(1) 社会科（歴史的分野）における実践（日時 令和2年10月 対象 第1学年）

ア 単元名 「貴族社会の発展」

イ 単元の目標

- ・ 天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。
- ・ 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。

ウ 指導計画

租税教育の一環として、税に着目した授業展開を計画したため、本題材については2時間扱いとした。

第1時 シルクロードにつながる道

**第2時 木簡と計帳は語る 1（本時）**

第3時 木簡と計帳は語る 2

第4時 望月の欠けたることもなしと思えば

第5時 「伊呂波」から「いろは」へ

エ 本時の目標

- ・ 都の貴族の豊かな暮らしは、全国から集められる税によって支えられていた一方で、地方の農民にとっては、重い負担となっていたことを資料から読み取り、理解する。

オ 本時の実際

過程	学習活動	形態	時間	指導上の留意点
導入	1 前時の復習を行う。	一斉	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 律令制のもとで身分ごとに分けられ、戸籍に登録されていたことを確認する。</li> <li>・ ICT機器を活用する。</li> <li>・ 奈良時代の食事についてクイズ形式で興味・関心を高めるとともに、貴族が食べていた食事を紹介し、豪華な食事だったことを確認する。</li> </ul>
	2 奈良時代の人々の様子（イラスト）を見て、どのような人々がいるかを見る。	一斉 ペア	5分	
	3 貴族と一般の人々の食事の違いを比べる。	一斉	5分	

	4 本時の学習課題を確認する。			
	なぜ、奈良時代の貴族は豪華な食事やぜいたくな生活ができたのだろうか。また、一般の人々はどのような生活をしていたのだろうか。			
展開	5 資料から、貴族と一般の人々の生活の様子について予想を立てる。	個	7分	・ 鹿児島学習定着度調査の資料を使用する。
	6 グループで話し合う。	班	20分	・ 話し合いが停滞している場合は、ヒントを与える。早く終わった生徒をヒント係として他の生徒に声をかけさせる。 ・ 資料がつながっていることを促す。 農民は税を取られる→貴族はぜいたくな暮らし→農民は苦しい生活→逃げ出す農民もいた。
終末	7 本時のまとめを行う。	一斉	6分	
	<p>貴族がぜいたくな暮らしができたのは、一般の人々が租・調・庸などのさまざまな税を負担していたからである。</p> <p>一般の人々は、さまざまな負担を求められ、厳しい取り立てて着るものや食べるものにも困っていた。また、口分田を捨てて逃げ出す者もでてきたりする苦しい生活であった。</p>			
	8 本時を振り返り感想を記入する。	個	2分	・ 分かったことやできるようになったことを書いて、自ら学びや変容を自覚できるようにする。

#### カ 本時の評価

- ・ 資料から奈良時代の税の種類や人々の生活を読み取り、適切にまとめ、表現できたか。  
(思考・判断・表現)
- ・ 奈良時代の税制度について、理解できたか。  
(知識・理解)

#### キ 生徒の振り返り

- ・ 昔は逃亡してまで税から逃れようとしていた。それほど苦しい生活だったということが分かった。
- ・ 奈良時代の貴族が、税のおかげで暮らしていたことが分かった。
- ・ 男性の税の多さも初めて知った。
- ・ 昔の人々は税金でこんなに苦労していたと初めて知った。



(2) 社会科（歴史的分野）における実践（日時 令和3年10月 対象 第1学年）

ア 令和2年度から工夫した点

- ・ 奈良時代の税のしくみ等について、生徒が考察しやすいよう資料の精選等の工夫を行った。
- ・ タブレットを活用し、奈良時代の人々の立場になって、当時の税の在り方等について意見を交流させる活動を行った。

イ 本時の実際（一部抜粋）

過程	学習活動	形態	時間	指導上の留意点
展開	5 学習課題について、資料から考える。	個	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿児島学習定着度調査の資料を引用する。</li> <li>・ 話し合いが停滞している場合は、ヒントを与える。</li> <li>・ 早く終わった生徒をヒント係として他の生徒に声をかけさせる。</li> </ul> 農民は税を取られる→貴族はぜいたくな暮らし→農民は苦しい生活→逃げ出す農民もいた。
	6 グループで話し合う。	班	10分	
	7 タブレットで発表する。		5分	
終末	8 自分が考える負担が重いと思う税ランキングをつけ、タブレットで発表し、学級で共有する。	個	10分	



### 3 国語科における取組（日時 令和3年7月 対象 第2学年）

(1) 題材 魅力的な提案をしよう ～機器を使って、効果的な発表をする～

(2) 題材設定の理由

ア 本題材について

本題材は、話の構成を工夫したり、資料などを使ったりしながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるようになることを目標としている。

特に本題材においては、プレゼンテーションソフト等の機器を用いて説明する場合はどのような工夫や配慮が必要なのかを実際に資料を作成し、発表するという経験を通じて学ぶことが重要である。そのため、単元全体を通して、実際にテーマの設定から資料作成、発表までを経験できるものとして構成した。

イ 言語能力育成の観点から

本単元においては、資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるようになることを目標としている。本校では、今年度より一人一台のタブレット端末が整備され、タブレット端末を活用しながら授業を展開することができる環境が整っている。

本単元においては、タブレット端末を活用できる環境を最大限に生かし、タブレットのアプリケーションである「ロイロノート」を用いてプレゼンテーションの資料作りを行いたい。

また、発表を行う前のリハーサルの時間においては、お互いの発表をタブレット端末で録画し、自分たちの発表を自分たちで見て振り返る時間も設定したいと考えている。相互の意見交換ではなかなか言い出せない改善点や、自分自身の発表の姿を見て新たに発見する気づきなどが出てくることに期待したい。

発表の際に使用した資料や発表の様子などは記録しておき、生徒たち自身の振り返りや評価に生かすだけでなく、次年度以降の資料作成や発表の良きモデルとして積み重ねていくことも意識して取り組んでいきたい。

ウ 租税教育の観点から

本単元では、グループ毎にテーマを設定し、資料を作成してプレゼンテーションを行う。昨年度から社会科を中心に租税教育の一環として「税に関する講話」などの学習を行っていることから、その基礎知識を生かすことでよりスムーズに資料作成を行うことを期待したものである。

「税って何だろう」「なぜ税は必要なのだろう」「税の歴史」といったテーマを設定し、選択したテーマに合わせて資料作成を行った。資料作成の際には、租税教育のリ

タブレットや国税庁のホームページなどを活用して情報収集を行わせた。準備された資料をただ読むだけでなく、他者へ伝えるために何がポイントになるかということ意識しながら読むことによってより税に関する理解も深いものになることが期待できる。

学級を10のグループに分け、テーマを5つ設定して行ったが、同じテーマを設定しているが注目したデータや取り扱う内容が異なることも、税に関する知識や理解を深めるきっかけになると考えられる。

### (3) 指導にあたって

本学級の生徒は、素直に授業にも積極的に取り組む様子が見られる。1年から、スピーチや、討論ゲームといった学習を通して、話す・聞く学習を積み重ねてきている。今回は、これまでに学んできたことに加えて、機器を活用して効果的な発表を行うことに挑戦させたい。

また、生徒達はタブレット端末(ロイロノート)の操作にもある程度慣れているため、図や写真などを入れながら効果的な資料が作成していけるように、操作方法などを適時アドバイスしていくことで、より意欲的で充実した学習を実現させることができると考えられる。

### (4) 目標

ア 話し言葉の特徴について理解することができる。 (知識及び技能)

イ 根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。

(思・判・表A(1)イ)

ウ 資料や機器などを活用し、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 (思・判・表A(1)ウ)

(5) 指導計画 (全6時間)

過程	時数	主な学習活動	租税教育との関わり
1	1	1 単元の目標を確認する。 2 グループ編成を行う。 3 グループ毎にテーマを設定する。	○ 資料を用いた効果的な発表のしかたを学ぶこと、税に関する考えをより深めることを確認させる。 ○ 租税教育に関する5つのテーマから選択させる。
2	1	4 提案内容を決定する。 5 発表の構成を確認する。	○ テーマに応じて中心として伝えたい内容を決定させる。
	2	6 発表資料を作成する。	○ ロイロノートを活用して発表資料を作成する。 ○ 国税庁HPやパンフレット等を活用させる。
	1	7 リハーサルを行う。 8 自分たちの発表の改善点等の確認を行う。	○ タブレットの録音機能を活用し、自分自身の発表を確認させる。 ○ 資料の見やすさや、伝えたい内容について再度検討を行わせる。
3	1	9 発表会を行う。 10 単元の学習の振り返りを行う。	○ 話す・聞く力の定着とともに、税に関する自分自身の考えの広がりや深まりについて振り返らせる。

(6) 学習の様子



(7) 授業後の生徒の感想

ア 税について学んだことはあったけど、詳しくは知らなかったの、この授業があつてよかった。タブレットを使つてのプレゼンは初めてだったけど、うまくプレゼンを作ることができた。この授業を通して、知らなかった税について、外国の税の種類についても知ることができたのでよかった。また、タブレットを使つてプレゼンをしたい。

イ 外国の税なんて、全然知らなかったから、調べてみて良い勉強になった。他のグループの発表も新しい発見がたくさんあつて、聞いていて楽しかった。大人になったら税に関わることが多くあると思うから、これからもっと詳しく税について知っていきたいと思った。

ウ 日本よりも税が高い国は多くあることや、日本にはない税など、初めて知ること多かつた。発表会では自分たちと違ったテーマでまとめているグループの発表を聞き、税の使い道などを詳しく学んだ。その中で「税は形が変化しただけで、昔からずっとあつた」という発表があり、とても印象に残っている。

エ 初めて知ることがたくさんあつた。昔から税はあつて、昔は食べ物が税だったということに驚いた。税金10%は多いと思つていたけど、まさか25%の国があるとは思わなかつた。まだ税について知らないこともあるかもしれないので、もっと税について知りたいなと思つた。

(8) 生徒の作成した税に関するプレゼンテーション資料

もし税金がなくなったら公共サービスを受けるのにお金がかかる

- 救急車が有料
- 医療費がすべて自己負担
- 交番が有料
- 道路や橋の整備がされなくなる

税金がなくなれば今まで支払合つてきたものがすべて個人が負担することになってしまう

**ポイント**

**消費税**

- 外国のいろいろな税 **独身税**
- 日本と外国の消費税率

**光るおもちゃ税って何??**

**税**

- 銃犯罪や区悪犯罪を抑制する狙いがある。
- アメリカのウェストバージニア州の「光るおもちゃ税」は、激しく発光したり、火花が出たりするような「銃のおもちゃ」や「火花」課されている。

**クイズ 世界の面白い税**

Q 次の税の中で実際ある税はなんでしょう? 複数選択可

- A.ソーダ税
- B.コーラ税
- C.ポテトチップス税
- D.キャンディー税

**飛鳥時代では租・庸・調があつた!**

それは男女の農民に課税され、税率は収穫の約3%でした。庸は都での労働、又は布を納める税、調は布や絹などの諸国の特産物を納める税だったようです。

**所得税とは?**

所得税は、個人の所得に対して払う税金です。1年間の全ての収入や売り上げから経費などを差し引いた残りの課税取得に、所得額に応じた税率を乗じて、税率ごとの額を差し引く税

簡単に言うと働いて払うお金!

**～税は人を支えている～**

私たちが納めた税は国民の『健康で豊かな生活』を実現するために国や地方公共団体が行う活動の財源となります

国民や会社 → 話し合いで決定 → 国会 → 予算案を提出 → 内閣 → 国の支出 → 公共施設・公的サービス

税金とは、国や地方の団体の人たちに、法律で決められただけ納めるお金のことです。

また、規制というものも有り、財政の中心、また、政治や経済そのものとなっています。

**税制**

**まとめ**

税には、私たちが豊かに生活できるように使われている。だから、しっかり払わないといけないと思つた。また、少子高齢化の影響で1人1人の税が多くなるが、これからの生活のために納めていきたい。



#### 4 特別の教科 道徳における取組（日時 令和3年7月 対象 第3学年）

国際的視野に立って、自分にできることで世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てるとともに、国が行っている政府開発援助に触れることで租税教育との関連を図り、以下の実践を行った。

(1) 主題名 世界平和を考える

(2) 資料名 「本とペンで世界を変えよう」

(3) 本時のねらい

- ・ 国際的視野に立って、自分にできることで世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てる。

(4) 本時の実際

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 数百年でできる国際協力についてクイズ形式で世界についての興味関心を高める。</p> <p>2 マララについて知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDG s の授業と関連させながら、マララについて説明し、世界平和について考えることを伝える。</li> </ul>
展開	<p>3 発問① 武装勢力がスワートを支配し、学校へ通えなくなったとき、マララはどんな気持ちだっただろう。</p> <p>発問② 「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えられる」という言葉には、マララのどんな思いが込められているのだろう。</p> <p>発問③ マララをここまで突き動かすものは何だろう。</p> <p>発問④ 世界平和の第一歩には、どんなことがあるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本ではあたりまえに学校へ通っているが、世界にはいろいろな国があることを理解させ、マララの心情に共感させる。</li> <li>・ みんなが教育を受けられる平和な社会を築いていきたい、というマララの思いから世界平和について考えさせる。</li> <li>・ 差別をなくしすべての人の権利を尊重することが世界平和と人類の幸福につながることに気づかせる。</li> <li>・ まず自分にできる身近な問題について考えることが大切だと気づかせる。</li> </ul>
終末	<p>4 国として協力している ODA について紹介し、経済協力費として税金を使っていることを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 租税教室との関連を図り、税とのつながりを理解させる。</li> </ul>

(5) 評価

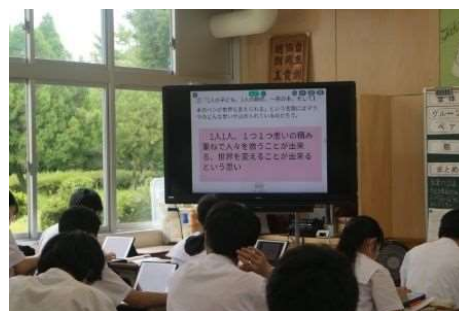
- ・ マララの姿をとおして、世界平和を自分のこととして考える発言や記述が見られたか。

(6) 世界平和の第一歩にはどんなことがあるだろう。(生徒の意見)

- ・ 寄付やユニセフの活動に参加する。
- ・ インターネットや作文などで意思表示をする。
- ・ しっかり教育を受けること。
- ・ 人に優しい心で接し、思いやりの心をもつ。
- ・ 今、世界で問題となっていることをよく知る。
- ・ 他の国の文化や伝統を知ってみる。
- ・ 何か一つのことに熱心に取り組み、みんなと協力すること。

(7) 授業後の生徒の感想

- ・ マララさんが世界中の子どもたちのために頑張っていると分かりました。今日の授業を胸に、学校での一時間一時間の教育を大切にしていきたいです。
- ・ 私たちがこうして平和に安全で授業を受けることができることをあたりまえに考えてはいけなかったと思いました。そして、今も世の中のために誰かが動いているというのも覚えておきたいと感じ、私たちができる世界平和への第一歩をしっかりと考えていきたいです。
- ・ 今日の授業を通して、税金で作られていたり、使われている場所を大切に使うべきだと思いました。
- ・ 世界を平和にしたい、教育を大切にしたいというマララさんの強い思いが、世界に広がっていることがすごいことだと思った。今、私たちが教育を受けていることが本当に大切なものなんだと改めて思った。世界への寄付金に私たちの税金が関わっていることがわかってよかった。これからも税金をきちんと納めていきたいと思った。
- ・ 自分にできる募金活動を試してみようと思った。そして、税金で成り立っている部分の僕たちの生活をあたりまえだと思わずに感謝して過ごしていこうと思った。



### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 税に関するアンケートの分析

##### (1) 税に関するアンケート結果

ア あなたは、税について、興味・関心はありますか？

	ある	少しある	あまりない	全くない
R 2	0%	38%	44%	18%
R 3	30%	70%	0%	0%

イ あなたは、税について、家庭で話をしたことがありますか？

	ある	少しある	あまりない	全くない
R 2	12%	26%	38%	24%
R 3	6%	46%	26%	22%

ウ あなたは、税を納めることについて、どう思いますか？

	当然納めるべき	仕方がないが、納めるべき	納める必要はない	納めても納めなくてもいいのでは	分からない
R 2	41%	47%	0%	2%	10%
R 3	78%	16%	0%	2%	4%

エ 税が役に立っていると感じたことはありますか？

	ある	少しある	あまりない	全くない
R 2	26%	30%	42%	2%
R 3	52%	32%	14%	2%

オ それはどんなときですか？

R 3	救急車 警察 教科書 学校の備品 (タブレット・電子黒板・チョーク) 公園 道路
-----	--

カ 税にはどのような種類がありますか？知っている税に○をつけましょう。

(複数可)

	所得税	消費税	酒税	たばこ税
R 2	58%	97%	23%	23%
R 3	84%	99%	74%	77%
	関税	住民税	自動車税	固定資産税
R 2	73%	26%	17%	20%
R 3	65%	45%	29%	29%

## (2) 租税教育を通しての生徒の感想

- ・ 今までは税の恩恵を感じることは少なかったけど、今は舗装された道路を見て税がみんなのために使われていると感じるようになりました。
- ・ 税をきちんと納めることで自分たちの暮らしがよりよいものになっていくと思った。また、学校や公共施設などをもっと大切に利用しようと思った。
- ・ 税が高くなるのは嫌だなと思っていたが、生活の役に立つなら良いと思った。
- ・ 税金は私たちのためにあって、それを未来へつなげていかないといけないものだと思います。これからもよりより生活が送れるように税金を払っていきます。
- ・ 税についての考え方が変わった。前までは何のために納める必要があるんだろうと思っていたけど、税がある大切さに気づくことができた。いつか納める日が来ても、しっかりと習ったことを忘れないようにしたい。
- ・ 一人一人が必ず納めなければ、環境悪化やいつものように安心して誰でも授業を受けることができなくなることを改めて考えることができた。税について、もっと知り、みんなが過ごしやすい世の中であってほしいと思った。

## (3) アンケート結果の考察

- ・ 「税」への興味・関心が高まった生徒の割合が大きく増えた。
- ・ 納税に対する考えは、当初より肯定的な生徒が多かったが、「仕方ないが納めるべき」という生徒の割合が減り、「当然納めるべき」という回答の割合が増えた。
- ・ 「税が役に立っていると思う」という生徒の割合が増加した。「どんな時に役にたっていると感じたか」という回答に学校の備品や公園、道路を思い浮かべた生徒が多く、身近な社会生活と税との関連を深められた。
- ・ 夏休み前に租税教室を行い、夏休みの課題として税の作文を課したため、家庭で「税」の話をする生徒が増えつつある。
- ・ 税の種類については、租税教室で紹介していただき、理解が深まりつつある。特に、酒税、たばこ税については租税教室のグループ討議で話題になった班も多く、関心が高まった。

## 2 研究の成果

- (1) 租税教育の取組によって、生徒の租税への知識や理解を深め、納税意識を高めることができた。
- (2) 租税教室では、グループワークを取り入れ、「社会保障を減らすには」「社会保障を守るには」というテーマで生徒自らが主体的に考え、自分たちの考えを発信していく学習形態を実現することができた。
- (3) 「税」という言葉をキーワードにして国語科や道徳の時間との連携を図ることができ、教科横断的な取組を行うことができた。

### 3 今後の課題

- (1) 社会科を中心に国語科や道徳の時間との連携を図りながら、租税教育を進めてきた。今後は、更に学校全体の教育活動として、教科横断的な学習につなげていきたい。
- (2) 新聞記事の活用や税についてのニュースや話題を通して、生徒の興味・関心を一層高めていきたい。
- (3) 租税教育の研究を通して、税に関する興味・関心が高まってきた。今後は、生徒が更に主体的に税に関する学習に取り組めるよう指導の工夫を図っていきたい。

### ○ おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、「租税教育を通して、税に対する理解と興味・関心を高め、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する」を研究主題として取り組んできた。今回の取組が生徒の納税意識や税に対する興味・関心の高揚につながれば幸いである。

最後に、研究を支え、協力してくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、鹿屋税務署、鹿屋肝属法人会青年部会、その他関係者の方々に心から御礼申し上げます。

## 理由を知って納める税

鹿屋市立串良中学校

3年 有馬 菜緒

今、社会には様々な種類の税金がある。例えば、私にとって一番身近な消費税の他に、所得税、住民税、相続税など約五十種類もあることを学んだ。これらの税金は何に使われているのだろうか。大人になっていく上で、ただ税金を払うのではなく、きちんと理由をもって納める税金の方が良いと思い、調べてみることにした。

国民の払う税金は、主に国の為に使われている。私たちの健康や生活を守るための社会保障関係費、道路や住宅の整備のための公共事業関係費、国の防衛のための防衛関係費など国民の為に使われている税金が多い。これらの税金のおかげで私は、安心できる環境で暮らすことができている。一方で、税金を外国のために使う「経済協力費」というものがあることを知った。今回、税金について調べた中で国の収入は、約六割が税金、約四割は借金だそうだ。この借金も税金で返しているようだが、返さなければならぬお金が増えていることが問題となっている。国の借金も厳しい中、なぜ国外に税金を使うのだろうか。「経済協力費」について調べてみた。

経済協力費とは、世界にある開発途上国の経済発展を目的とするもので、貧しさや食糧不足で困っている人々にお金を貸すだけでなく、薬や注射器などを送るそうだ。このような取り組みは、日本のような先進国に求められる世界的な貢献活動とされている。今、日本が貢献活動を行う背景には、日本が戦後復興の時期に外国から援助を受けていたことがあげられる。現在、復興を果たした日本は、援助をする側となった。また、東日本大震災では世界各国から多くの援助が行われ、そのなかには開発途上国からの援助もあったそうだ。戦後復興の時期や災害時、苦しい状況にあった日本を世界が援助し、今では先進国といわれ、発展を続けている。日本は、世界の援助があったからこそ今だと思う。だからこそ、今、苦しい状況にいる国を援助することは大切なことだと思った。助けを求める国があれば援助し、自国が苦しいときには、援助をしてくれる国がある。このような国際関係を税金で築いていることがすばらしいと思った。

国民が納めた税金で経済協力費として使われる金額は、0.5パーセント程度だそうだ。ほんの一部の税金ではあるがこの税金には大きな意味があると思う。私の納める税金が、遠いどこかの誰かを救うかもしれない。直接ではないけど、税金として援助できるうれしさを感じた。そして、国同士の助け合いにつながる税金の力の大きさを多くの人に知ってほしいと思う。今から私は、大人になっていく上で、納める税金も多くなると思う。しかし、税金に対してマイナスなイメージをもつのではなく、国のため、国境をこえた誰かのためにという理由をもって、気持ち良く納めていきたい。

## 税を納める生活

鹿屋市立串良中学校

3年 前田 実莉

私たちは何のために働くのでしょうか。社会に貢献するため、その仕事が好きだから、など色々あるかもしれませんが、一番にはお金を得るためではないでしょうか。世の中、お金がなくては食べることも、家を持つこともできません。しかし、我々はそのお金の一部を税金として納めています。

私は小学生の頃、中途半端にしか税に対する知識がなかったので、商品を買ったら消費税を納めることは知っていても、なんで自分のお金で買ったのに国にもお金を払わないといけないのだろうか、所得税についても、かせぎが多くなるほど、納める税も多くなると知って、それじゃあ一生懸命働いた人がかわいそうだと思っていました。しかし、成長するのと同時に社会科の授業や税に関するお仕事に就いている方から、直接授業して頂ける機会が増えました。すると、消費税や所得税を納めることは私たちの生活をより豊かにし、住みやすい町づくりにつながっていることが分かりました。また、以前まではおかしいと思っていた所得税の制度も、所得によって税の負担を変えることで人による収入の差をより小さくできることも知り、素敵で制度だなど考えを改めることができました。税についての授業を受けるとき、講師の先生方は必ず少子高齢化についてのお話をされます。今、日本の平均寿命は著しく伸びています。一方で、出生率は低下しており、このままでは一人あたりの税の負担が増え、生活を支えることが難しくなってしまいます。そうなってしまえば、私たちの暮らしの豊かさが奪われてしまうような局面がやってくるのも時間の問題かもしれません。そうなる前にこれから社会の中心となる私たちが何か対策をする必要があります。他人事だと思わず、できることは積極的に取り組んで問題解決への道を開けるといいなと思います。

必死に働いたお金の一部を税金として納める理由。それは、生きるために必要だからだと思います。納めた税は回りまわってやがて自分に役に立つだろうし、多くの人の命や生活を支えるでしょう。税とともに生きる上で大切なことというのは知ることなのではないでしょうか。以前の私のように生半可な知識ではなく、正しく多くの税の情報を身につけて「払わされている税」ではなく、進んで納めるような体制になれるといいなと思います。